

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
国際ことば学院外国語専門学校	平成20年4月1日	袴田 靖子	〒422-8062 静岡県静岡市駿河区稻川3-9-4 (電話) 054-270-7091																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人 国際ことば学院	平成20年3月25日	袴田 靖子	〒422-8076 静岡県静岡市駿河区八幡3-2-28 (電話) 054-286-0788																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	専門課程	東アジア言語学科 マルチリンガルビジネスコース	平成21年文部科学大臣告示第21号	-																						
学科の目的	アジア各国が世界のビジネスを牽引する時代。ビジネスレベルの英語・中国語・韓国語と、最新のITスキルを身につけ、ホテル・旅行・貿易などの業界で活躍できる国際人を育成します。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験																				
2年	昼間	1740時間	1740時間	975時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
120人	79人	51人	6人	25人	31人																					
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学則第18条に基づき、定期試験・課題提出・講師による評価により5段階評価にて行う。																					
長期休み	■学年始:4月1日～3月31日 ■夏季:8月1日～8月28日 ■冬季:12月23日～1月5日 ■学年末:3月22日～4月5日			卒業・進級条件	学則第19条及び教育課程表に基づき、各学年に必要な科目を履修し、単位を取得し、出席率を満たした者に対して校長が卒業・進級を認める。																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 教務部・事務部が連携して学生情報を共有している。個別相談を定期的・随時行い、相談内容は担任会議を通して教職員に共有され、問題への早期対応に努めている。			課外活動	■課外活動の種類 学外コンテスト、国際交流イベントへの参加を積極的に促している。  ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 名正運輸(株)、ベジコープ(株)を始めとする観光関連、貿易・物流関連業界等 ■就職指導内容 個別指導に基づく就職相談。ハローワークと連携した面接指導。学内企業説明会の実施。  ■卒業者数 : 57 人 ■就職希望者数 : 44 人 ■就職者数 : 29 人 ■就職率 : 65.90909091 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 51 %  ■その他 ・進学者数: 5人 ・特定活動ビザへの変更: 16人 ・家族滞在ビザへの変更: 2人 ・その他: 5人			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等  (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>ハングル能力検定試験</td><td>③</td><td>22人</td><td>2級 1人、準2級 2人、3級 3人、4級 10人ほか</td></tr><tr><td>HSKネット試験</td><td>③</td><td>22人</td><td>1～4級 計16人</td></tr><tr><td>TOEIC</td><td>③</td><td>4人</td><td>730点以上 2人</td></tr><tr><td>JLPT</td><td>③</td><td>32人</td><td>N2 8人</td></tr></tbody></table> ※種別欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 第18回神奈川韓国語スピーチ大会(プレゼンテーション部門 大賞)、第10回静岡韓国語スピーチ大会(韓国語部門 大賞・特別賞)、第10回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト(HOPE賞)		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ハングル能力検定試験	③	22人	2級 1人、準2級 2人、3級 3人、4級 10人ほか	HSKネット試験	③	22人	1～4級 計16人	TOEIC	③	4人	730点以上 2人	JLPT	③	32人	N2 8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
ハングル能力検定試験	③	22人	2級 1人、準2級 2人、3級 3人、4級 10人ほか																							
HSKネット試験	③	22人	1～4級 計16人																							
TOEIC	③	4人	730点以上 2人																							
JLPT	③	32人	N2 8人																							
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和3年4月1日時点において、在学者108名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者105名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 一身上の都合・進路変更・病気・帰国等 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個別相談の実施。三者面談、欠席者への自宅訪問など			■中退率 3 %																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特別奨学生制度、学校推薦奨学生制度、資格取得奨学生制度、優秀学生報奨制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	<a href="http://sp.kotoba.ac.jp/courses">http://sp.kotoba.ac.jp/courses</a>																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などがされた者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料・賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国際ことば学院外国語専門学校では、育成人材像に基づき効果的に企業などと連携し、業界が求める人材を育成できる教育課程を編成することを基本方針とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

地方公共団体、学術機関の有識者、企業関係者と学内カリキュラム編成委員によって編成される「教育課程編成委員会」は、学内で作成された教育課程について年2回以上行われる「教育課程編成委員会」で討議し、より効果的な教育課程編成に役立てる位置づけとしている。カリキュラム作成担当チームで協議したものを、教務課常勤講師からなる担任会議において審議し、校長の承認のもと、次年度カリキュラムに取り入れる。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
天野 一	静岡県日中友好協会 会長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	①
垣内 康晴	(株)ピーエイ 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	③
松本 保美	(株)ジョブエール 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	③
瀬本 次久	(株)建通新聞社 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	③
田村 敏広	静岡県立大学 准教授	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	②
袴田 靖子	国際ことば学院外国語専門学校 校長 兼 学校法人国際ことば学院 理事長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	
堀場 裕司	国際ことば学院外国語専門学校 学科長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、  
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、3月を基本として必要に応じて追加開催する。)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月23日 15:30～17:00

第2回 令和4年3月23日 15:30～17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

より効果的な授業運営のための授業評価の必要性に対する意見に対し、授業評価を実施し、フィードバックをもとに評価項目を増やすなどの改善を行った。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国際ことば学院外国语専門学校では、育成人材像に基づき企業などと連携して実習・演習を行い、効果的な教育課程を編成する。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習・演習を企業と連携して行う際には、関連業界への就職の実務につながる実習・演習内容を連携企業と作成し、協定を締結し効果的な連携授業を行っている。

### (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
オフィスIT技術	エクセルを活用できるよう、演習を中心にソフトウェアの知識と操作を身に付け、日商PC検定ベーシック合格を目指す	OFFICE PWL合同会社
ホスピタリティ	ホスピタリティを実習を通して学ぶ	(株)ジョブエール (株)竹谷旅館ホテルクエスト清水
接遇マナー	ビジネスマナー全般について実習を行う	(株)チーム医療

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

国際ことば学院外国语専門学校は、実務に関する知識・技術・技能を身に付けるため、社会変化に対応した授業を行うため、業界が求める人材を育成するために教職員に対して研修の必要性を把握し、教職員研修規定に基づき計画的に研修を実施する。

### (2) 研修等の実績

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「経理実務」(連携企業等:株式会社 リバティー)

期間:令和3年8月3日(火)・4日(水)・5日(木) 対象:経理担当者

内容:経理実務の基礎(簿記3級程度)、複式簿記の仕組み、仕訳の方法、決算書の見方

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和3年度 新任教員研修」(連携企業等:公益社団法人 静岡県職業教育振興会)

期間:令和3年8月3日(火)・5日(木) 対象:新任教員

内容:学生・教員のための実践心理(青年心理・教育心理)

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「経理実務」(連携企業等:株式会社 リバティー)

期間:令和4年8月3日(水)・4日(木)・5日(金) 対象:経理担当者

内容:経理実務の基礎(簿記3級程度)、複式簿記の仕組み、仕訳の方法、決算書の見方

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和4年度 新任教員研修」(連携企業等:公益社団法人 静岡県職業教育振興会)

期間:令和4年8月3日(水)・4日(木) 対象:新任教員

内容:学生・教員のための実践心理(青年心理・教育心理・担任教師による学生支援)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

国際ことば学院外国語専門学校は、適切な学校運営のために自己点検・自己評価を行い、その結果について企業関係者・卒業生・保護者・地域住民等を委員とする委員会を設置し、委員による評価をもとに学校運営の改善を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 学修成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	基準7 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ガイドライン評価項目(6)の教育環境「防災・安全管理」について、「留学生が多く在籍しているため、避難場所の確認をしっかりしてほしい。」とのアドバイスをいただいた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
栗田 裕之	静岡市議会議員	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
浜本 百合子	医療法人社団 浜本整形外科医院 理事・事務	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
清水英治	(株)BRICS 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
伊藤 精俊	(有)アミュージングデザインイトウ 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
アドヒカリ ラビンドラ	レストラン「ナマステ・フジ」 経営者	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	卒業生
中村 直保	森下学区連合自治会長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	地域住民
伊藤 照之	元常葉大学付属菊川高校 非常勤講師	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
海野 香純	在校生父兄	令和4年6月1日～ 令和5年5月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment>

公表時期:令和4年7月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

国際ことば学院外国語専門学校では、ホームページやSNS、広報誌を通して学校の運営状況、学生の活動状況を企業等の学校関係者に対して積極的に情報提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2)各学科等の教育	基準2 学校運営
(3)教職員	基準3 教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	基準4 学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	基準5 学生支援
(6)学生の生活支援	基準6 教育環境
(7)学生納付金・修学支援	基準7 学生の募集と受け入れ
(8)学校の財務	基準8 財務
(9)学校評価	基準9 法令の遵守
(10)国際連携の状況	基準10 社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物

URL: <http://sp.kotoba.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 東アジア言語学科 マルチリンガルビジネスコース) 令和4年度														
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員	
	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
1	○		言語学概論	母語と外国語を比較・対照しながら、表現することばを学び、ことばについて考える。また、文法用語などに関する知識を身につけ、それを用いて母語や学習言語を説明する。	①通	30	2	○			○		○	
2	○		コミュニケーション	自分を俯瞰し、自分と他者との関係やそれを取り巻く環境を客観視する練習をすることで、コミュニケーションの質を高め、社会で生きていく力を養う。	②通	30	2	○			○	○	○	
3	○		現代史	国際的な分野で活躍するために必要な現代史について基礎知識を身につける。主に第二次大戦後の世界で起きた出来事について考察し、現代の世界の動向について理解を深める。	①通	30	2	○			○		○	
4	○		政治経済	「経済」「企業」「政治」とは何か、基本的な知識を正しく理解し、それが現実の生活にどのようなかかわりがあるかを理解する。	②通	30	2	○			○		○	
5	○		接遇マナー	日本における基本的なビジネスマナーを学び、就職活動に対するモチベーションを高める。自信を持って面接に臨めるよう準備、トレーニングをする。	①通 ②通	30	2	△	○		○		○	○
6	○		ホスピタリティ	ホスピタリティに関する基礎知識を身につける。自文化、多文化に対する理解を深めるとともに、それに基づいた普遍性のあるコミュニケーション能力を獲得する。	①通	30	2	○	△		○		○	
7	○		観光業入門	日本の観光業について基礎的な知識を身につける。また、自分の出身地域の魅力について紹介、説明できるようにするとともに、お互いの国のことを探る。静岡県について知る。	①通	15	1	○			○		○	
8	○		貿易入門	国内取引との違い、為替の仕組み、輸入や輸出の流れや方法、関係業者等の貿易に関する基礎知識を身につけるとともに、ビジネスにおける世界や日本の現状を学習する。	①通	15	1	○	△		○		○	
9	○		ビジネス実務	ビジネス実務の基本的な知識やビジネスコミュニケーションスキルの習得を目指し、今後社会に出て働く上で必要となることを身につける。	②通	75	5	△	○		○		○	○
10	○		パソコンリテラシー	コンピュータ及びインターネットの活用に必要な基本的な能力の育成を目的とし、WindowsPCの基本操作、インターネットの活用法、ワープロソフトを使用した文書作成技術を身につける。	①通	75	5	△	○		○		○	
11	○		オフィスIT技術	Excelの基礎操作から初步的関数までを活用できるよう、演習を中心に、ソフトウェアの知識と操作を身につける。日商PC検定ベーシック合格を目指す。	②通	75	5	△	○		○		○	○

12	○		プレゼンテーション技術	Powerpointの基本技術を身につけるとともにプレゼンテーション技術を習得、向上させることを目的とする。Powerpointの講義と実技を実際の発表と合わせて行う。	①通 ②通	45	3	△	○		○		○	
13	○		総合英語	各レベル、テキストに沿って英語の文法を学習しドリル練習を行うことで運用能力を高める。Reading/Writing/Listening/Speakingの4技能のバランスの取れた向上を目指す。	①通 ②通	495	33	○	△		○		○	○
14	○		日本語表現	異なる立場や価値観を持つ相手に対して起こる状況下で課題を遂行するための調整能力を醸成し、自らの考え方や主張を適切な日本語を選択して表現する技術を学ぶ。	①通	30	2	○			○		○	
15	○		マルチコミュニケーション	学習した言語（英語、中国語、韓国語、日本語）を用いたビジネス場面でのコミュニケーションを学ぶ。	② 3	15	1	△	○		○	△	○	○
16		○	英語研修	英語の運用能力の向上を図るとともに、観光などを通じ現地の歴史・文化・人に触れるによって、英語に対してさらに理解を深める。	① ② 2	120	4		○	△		○	○	○
17		○	中国語研修	中国語の運用能力の向上を図るとともに、観光などを通じ現地の文化・人に触れるによって、より中国語への理解を深める。	① ② 2	120	4		○	△		○	○	○
18		○	韓国語研修	韓国語の運用能力の向上を図るとともに、観光などを通じ現地の歴史・文化・人に触れるによって、韓国語に対してさらに理解を深める。	① ② 1	120	4		○	△		○	○	○
19		○	観光実務	日本の旅行地理、旅の歴史、観光資源、観光産業の種類、観光事業の仕組み、最近の日本国内の観光業の動きや訪日客の状況等について学ぶ。	② 2	15	1	○	△		○			○
20		○	貿易実務	貿易実務を学び、仕事に必要な知識を身に着けるとともに、英語の書類を作成する。	② 1 2	30	2	△	○		○			○
合計				科目	単位時間(236単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
1年次に870単位時間（58単位）以上、2年次にも870単位時間（58単位）以上、計1740単位時間（116単位）以上履修し、D（可）以上の評価を得ること		1学年の学期区分	3期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方針の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地															
国際ことば学院外国語専門学校	平成20年4月1日	袴田 靖子	〒422-8062 静岡県静岡市駿河区稻川3-9-4 (電話) 054-270-7091															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地															
学校法人 国際ことば学院	平成20年3月25日	袴田 靖子	〒422-8062 静岡県静岡市駿河区八幡3-2-28 (電話) 054-286-0788															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士														
文化・教養	文化教養専門課程	東アジア言語学科 グローバルコミュニケーションコース	平成21年文部科学大臣告示第21号	—														
学科の目的	アジア各国が世界のビジネスを牽引する時代。ビジネスレベルの日本語・英語と、最新の ITスキルを身につけ、ホテル・旅行・貿易などの業界で活躍できる国際人を育成します。																	
認定年月日	平成26年3月31日																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験												
2年	昼間	1740時間	1740時間	975時間	0時間	0時間												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
80人	73人	72人	6人	25人	31人													
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 学則第18条に基づき、定期試験・課題提出・講師による評価により5段階評価にて行う。</p>													
長期休み	■学年始:4月1日～3月31日 ■夏季:8月1日～8月28日 ■冬季:12月23日～1月5日 ■学年末:3月22日～4月5日			卒業・進級条件	学則第19条及び教育課程表に基づき、各学年に必要な科目を履修し、単位を取得し、出席率を満たした者に対して校長が卒業・進級を認める。													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 教務部・事務部が連携して学生情報を共有している。個別相談を定期的・随時行い、相談内容は担任会議を通して教職員に共有され、問題への早期対応に努めている。			課外活動	<p>■課外活動の種類 学外コンテスト、国際交流イベントへの参加を積極的に促している。</p> <p>■サークル活動: 有</p>													
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) (株)G-7ホールディングス、名正運輸(株)を始めとする 貿易・物流 関連業界等 ■就職指導内容 個別指導に基づく就職相談。ハローワークと連携した面接指導。学内企業説明会の実施。  ■卒業者数 : 36 人 ■就職希望者数 : 26 人 ■就職者数 : 25 人 ■就職率 : 96 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 69 % ■その他 ・進学者数: 4人 ・特定活動ビザへの変更: 4人 ・帰国・その他: 3人			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<p>■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JLPT</td><td>③</td><td>32人</td><td>N1 1人 N2 3人</td></tr> <tr> <td>TOEIC</td><td>③</td><td>15人</td><td>730点以上 9人</td></tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。      ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの      ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの      ③その他(民間検定等)      ■自由記述欄 第9回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト(奨励賞)、第10回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト(TOP50、HOPE賞)</p>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JLPT	③	32人	N1 1人 N2 3人	TOEIC	③	15人	730点以上 9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数															
JLPT	③	32人	N1 1人 N2 3人															
TOEIC	③	15人	730点以上 9人															
中途退学の現状	■中途退学者 7名 令和3年4月1日時点において、在学者78名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者71名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 一身上の都合・進路変更・病気・帰国等 ■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個別相談の実施。三者面談、欠席者への自宅訪問など			■中退率	9 %													
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学生・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特別奨学生制度、学校推薦奨学生制度、資格取得奨学生制度、優秀学生報奨制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																	
当該学科のホームページURL	<a href="http://sp.kotoba.ac.jp/courses">http://sp.kotoba.ac.jp/courses</a>																	

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などがされた者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、留学生、聽講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な收入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

国際ことば学院外国語専門学校では、育成人材像に基づき効果的に企業などと連携し、業界が求める人材を育成できる教育課程を編成することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

地方公共団体、学術機関の有識者、企業関係者と学内カリキュラム編成委員によって編成される「教育課程編成委員会」は、学内で作成された教育課程について年2回以上行われる「教育課程編成委員会」で討議し、より効果的な教育課程編成に役立てる位置づけとしている。カリキュラム作成担当チームで協議したものを、教務課常勤講師からなる担任会議において審議し、学校長の承認のもと、次年度カリキュラムに取り入れる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
天野 一	静岡県日中友好協会 会長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	①
垣内 康晴	(株)ピーエイ 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	③
松本 保美	(株)ジョブエール 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	③
瀬本 次久	(株)建通新聞社 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	③
田村 敏広	静岡県立大学 准教授	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	②
袴田 靖子	国際ことば学院外国語専門学校 校長 兼 学校法人国際ことば学院 理事長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	
堀場 裕司	国際ことば学院外国語専門学校 学科長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、3月を基本として必要に応じて追加開催する。)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年6月23日 15:30～17:00

第2回 令和4年3月23日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

より効果的な授業運営のための授業評価の必要性に対する意見に対し、授業評価を実施し、フィードバックをもとに評価項目を増やすなどの改善を行った。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国際ことば学院外国語専門学校では、育成人材像に基づき企業などと連携して実習・演習を行い、効果的な教育課程を編成する。

### (2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習・演習を企業と連携して行う際には、関連業界への就職の実務につながる実習・演習内容を連携企業と作成し、協定を締結し効果的な連携授業を行っている。

### (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
オフィスIT技術	エクセルを活用できるよう、演習を中心としたソフトウェアの知識と操作を身に付け、日商PC検定ベーシック合格を目指す	OFFICE PWL合同会社
ホスピタリティ	ホスピタリティを実習を通して学ぶ	(株)ジョブエール (株)竹谷旅館ホテルクエスト清水
接遇マナー	ビジネスマナー全般について実習を行う	(株)チーム医療

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

国際ことば学院外国語専門学校は、実務に関する知識・技術・技能を身に付けるため、社会変化に対応した授業を行うため、業界が求める人材を育成するために教職員に対して研修の必要性を把握し、教職員研修規定に基づき計画的に研修を実施する。

### (2) 研修等の実績

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「経理実務」(連携企業等: 株式会社 リバティー)

期間: 令和3年8月3日(火)・4日(水)・5日(木) 対象: 経理担当者

内容: 経理実務の基礎(簿記3級程度)、複式簿記の仕組み、仕訳の方法、決算書の見方

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和3年度 新任教員研修」(連携企業等: 公益社団法人 静岡県職業教育振興会)

期間: 令和3年8月3日(火)・5日(木) 対象: 新任教員

内容: 学生・教員のための実践心理(青年心理・教育心理)

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「経理実務」(連携企業等: 株式会社 リバティー)

期間: 令和4年8月3日(水)・4日(木)・5日(金) 対象: 経理担当者

内容: 経理実務の基礎(簿記3級程度)、複式簿記の仕組み、仕訳の方法、決算書の見方

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「令和4年度 新任教員研修」(連携企業等: 公益社団法人 静岡県職業教育振興会)

期間: 令和4年8月3日(水)・4日(木) 対象: 新任教員

内容: 学生・教員のための実践心理(青年心理・教育心理・担任教師による学生支援)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

国際ことば学院外国语専門学校は、適切な学校運営のために自己点検・自己評価を行い、その結果について企業関係者・卒業生・保護者・地域住民等を委員とする委員会を設置し、委員による評価をもとに学校運営の改善を行う。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	基準2 学校運営
(3)教育活動	基準3 教育活動
(4)学修成果	基準4 学修成果
(5)学生支援	基準5 学生支援
(6)教育環境	基準6 教育環境
(7)学生の受け入れ募集	基準7 学生の募集と受け入れ
(8)財務	基準8 財務
(9)法令等の遵守	基準9 法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	基準10 社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ガイドライン評価項目(6)の教育環境「防災・安全管理」について、「留学生が多く在籍しているため、避難場所の確認をしっかりしてほしい。」とのアドバイスをいただいた。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
栗田 裕之	静岡市議会議員	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
浜本 百合子	医療法人社団 浜本整形外科医院 理事・事務	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
清水英治	(株)BRICS 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
伊藤 精俊	(有)アミュージングデザインイトウ 代表取締役	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
アドヒカリ ラビンドラ	レストラン「ナマステ・フジ」 経営者	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	卒業生
中村 直保	森下学区連合自治会長	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	地域住民
伊藤 照之	元常葉大学付属菊川高校 非常勤講師	令和4年6月1日～ 令和6年5月31日(2年)	業界関係者
海野 香純	在校生父兄	令和4年6月1日～ 令和5年5月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <http://sp.kotoba.ac.jp/self-assessment>

公表時期:令和4年7月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

国際ことば学院外国語専門学校では、ホームページやSNS、広報誌を通して学校の運営状況、学生の活動状況を企業等の学校関係者に対して積極的に情報提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2)各学科等の教育	基準2 学校運営
(3)教職員	基準3 教育活動
(4)キャリア教育・実践的職業教育	基準4 学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	基準5 学生支援
(6)学生の生活支援	基準6 教育環境
(7)学生納付金・修学支援	基準7 学生の募集と受け入れ
(8)学校の財務	基準8 財務
(9)学校評価	基準9 法令の遵守
(10)国際連携の状況	基準10 社会貢献・地域貢献・国際交流
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物

URL: <http://sp.kotoba.ac.jp>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 東アジア言語学科 グローバルコミュニケーションコース) 令和4年度															
必修	分類		授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		言語学概論	母語と外国語を比較・対照しながら、表現することばを学び、ことばについて考える。また、文法用語などに関する知識を身につけ、それを用いて母語や学習言語を説明する。	① 1	30	2	○			○			○	
2	○		コミュニケーション	「言語とコミュニケーション」の視点から、言語と社会の関わりについて考え、ことば化する。	② 1	30	2	○			○		○	○	
3	○		現代史	国際的な分野で活躍するために必要な現代史について基礎知識を身につける。主に第二次大戦後の世界で起きた出来事について考察し、現代の世界の動向について理解を深める。	① 通	30	2	○			○			○	
4	○		政治経済	「経済」「企業」「政治」とは何か、基本的な知識を正しく理解し、それが現実の生活にどのようなかかわりがあるかを理解する。	② 1	30	2	○			○			○	
5	○		接遇マナー	日本における基本的なビジネスマナーを学び、就職活動に対するモチベーションを高める。自信を持って面接に臨めるよう準備、トレーニングをする。	① 通 ② 通	30	2	△	○		○			○	○
6	○		ホスピタリティ	ホスピタリティに関する基礎知識を身につける。自文化、多文化に対する理解を深めるとともに、それに基づいた普遍性のあるコミュニケーション能力を獲得する。	① 通	30	2	○	△		○			○	
7	○		観光業入門	日本の観光業について基礎的な知識を身につける。また、自分の出身地域の魅力について紹介、説明できるようにするとともに、お互いの国のことを知る。静岡県について知る。	① 1	15	1	○			○			○	
8	○		貿易入門	国内取引との違い、為替の仕組み、輸入や輸出の流れや方法、関係業者等の貿易に関する基礎知識を身につけるとともに、ビジネスにおける世界や日本の現状を学習する。	① 通	15	1	○	△		○			○	
9	○		ビジネス実務	今後社会に出て働く上で必要な素養を身につける。また、経営戦略や収益の計算方法を学び、日本語でビジネスプランのプレゼンテーションを行う。	② 通	75	5	△	○		○			○	○
10	○		パソコンリテラシー	コンピュータ及びインターネットの活用に必要な基本的な能力の育成を目的とし、WindowsPCの基本操作、インターネットの活用法、ワープロソフトを使用した文書作成技術を身につける。	① 通	75	5	△	○		○			○	
11	○		オフィスIT技術	Excelの基礎操作から初步的関数までを活用できるよう、演習を中心に、ソフトウェアの知識と操作を身につける。日商PC検定ベーシック合格を目指す。	② 通	75	5	△	○		○			○	○

12	○		プレゼンテーション技術	Powerpointの基本技術を身につけるとともにプレゼンテーション技術を習得、向上させることを目的とする。Powerpointの講義と実技を実際の発表と合わせて行う。	① 2 ② 2	45	3	△	○		○		○	
13	○		総合英語	各レベル、テキストに沿って英語の文法を学習しドリル練習を行うことで運用能力を高める。Reading/Writing/Listening/Speakingの4技能のバランスの取れた向上を目指す。	① 通 ② 通	495	33	○	△		○	○	○	
14	○		総合日本語	日本語能力試験N1・N2対策を通して語彙力・読解力を伸ばし、日本語による情報収集能力を高める。	① 通 ② 通	210	14	○	△		○	○	○	
15	○		言語教育入門	日本語能力試験N1・N2レベルの文法を学び、日本語能力の向上をはかるとともに、文法の教え方を学び、実際に教える経験をする。	① 通	90	6	△	△	○	○	○	○	
16	○		対照言語学	母国語の入門講座とそのテキスト作成を行うことで、日本語と母国語の違いを分析する。同時に、多言語の入門講座を受けることで、様々な言語を比較、分析する力を身につける。	① 1 ② 2	60	4	○	△		○	○	○	
17	○		異文化論	文化について書かれた文章を読み、話し合って自分の考えをまとめることで、ことばの背景にある文化に関心を持ち、比較文化の視点を養う。	① 2 3	60	4	○	△		○	○	○	
18	○		教育実習	外国人を対象とし、実際に初級レベルおよび中級レベルで一人20~25分の日本語教育実習を行う。授業案作成、教材準備等を行い、練習を積んで実習に臨む。	② 1 2	60	2	△	△	○	△	○	○	○
19	○		卒業論文	論理性のある文書の理解と制作能力の向上を目指す。4000字以上のある程度内容のあるレポートを作成し、提出する。また、レポートについてのプレゼンテーションも行う。	② 通	120	8	△	○		○	○	○	
20	○		言語教育	上級レベルの文法分析とクラス内における模擬授業を通して、総合的な日本語能力の向上と授業技術を身につける。	② 1 2	60	4	△	△	○	○	○	○	
21	○		翻訳・通訳	翻訳技術の基礎知識を学び、母国語から日本語への翻訳を通して日本語の表現力を高める。一定以上の英語力がある者は、日本語と英語の翻訳練習も行う。	② 1 2	60	4	△	○		○		○	
22	○		教材作成	教材研究と教材化を通じて、教えるための教材作成のスキルを身に着ける。日本語教育実習のための教材作成や母国語と日本語のバイリンガル教材の作成も行う。	② 1 2	90	3	△	△	○	○	○	○	
23	○		ビジネス日本語	実在する企業のビジネスケースを題材として、ビジネスと日本語の総合的な学習をする。また、日本での就職活動を視野にいれ、日本のマナーや文化・習慣も身につける。	① 通 ② 通	180	12	○	△		○	○	○	
24	○		ビジネス英語	英語での電話応対や目的に合わせたビジネスメールの書き方を学ぶ。	① 通 ② 通	120	8	○	△		○	○	○	
25		○	日本語（検定対策）	日本語能力試験に合格することを目的とし、主に読解対策を行う。	① 通 ② 通	210	14	○	△		○	○	○	

26		<input type="radio"/>	英語（検定対策）	英検に合格すること、TOEICで高得点を取ることを目的とし、試験対策を行う。	<input type="checkbox"/> ①通 <input type="checkbox"/> ②通	135	9	<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
27		<input type="radio"/>	中国語（検定対策）	HSKIに合格することを目的とし、試験対策を行う。	<input type="checkbox"/> ①通 <input type="checkbox"/> ②通	135	9	<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
28		<input type="radio"/>	韓国語（検定対策）	ハングル能力検定または、S-TOPIKIに合格することを目的とし、試験対策を行う。	<input type="checkbox"/> ①通 <input type="checkbox"/> ②通	135	9	<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
29		<input type="radio"/>	教養数学	日本留学試験対策、就職活動への対応を目的とする。基礎問題、応用問題、実践問題と徐々にレベルを上げながら、高校数学の習得と復習を目指す。	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② 1 2	30	2	<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
30		<input type="radio"/>	英語研修	英語の運用能力の向上を図るとともに、観光などを通じ現地の歴史・文化・人に触れることによって、英語に対してさらに理解を深める。	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② 2	120	4		<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
31		<input type="radio"/>	中国語研修	中国語の運用能力の向上を図るとともに、観光などを通じ現地の文化・人に触れることによって、より中国語への理解を深める。	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② 2	120	4		<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
32		<input type="radio"/>	韓国語研修	韓国語の運用能力の向上を図るとともに、観光などを通じ現地の歴史・文化・人に触れることによって、韓国語に対してさらに理解を深める。	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② 1	120	4		<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
33		<input type="radio"/>	インターンシップ	仕事を体験することで、職業に対する理解を深める。関連企業で研修を受け、レポートを提出する。また、企業の担当者に評価をしてもらう。	<input type="checkbox"/> ② 2	60	2			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
34		<input type="radio"/>	経理実務	社会人として必須となる「会計」に関する基礎知識及び周辺知識を習得する。「会計」の本質を理解することで、就職活動へと応用する。	<input type="checkbox"/> ② 2	15	1	<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
35		<input type="radio"/>	観光実務	日本の旅行地理、旅の歴史、観光資源、観光産業の種類、観光事業の仕組み、最近の日本国内の観光業の動きや訪日客の状況等について学ぶ。	<input type="checkbox"/> ② 2	15	1	<input type="radio"/>	<input type="triangle"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
36		<input type="radio"/>	貿易実務	貿易実務を学び、仕事に必要な知識を身に着けるとともに、英語の書類を作成する。	<input type="checkbox"/> ② 1 2	30	2	<input type="triangle"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
合計					科目	単位時間(236単位)								

卒業要件及び履修方法					授業期間等		
1年次に870単位時間（58単位）以上、2年次にも870単位時間（58単位）以上、計1740単位時間（116単位）以上履修し、D（可）以上の評価を得ること					1学年の学期区分		3期
					1学期の授業期間		15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方針の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。